

☆高気圧酸素治療とは？

大気圧より高い気圧環境（水深 10～20mに相当）の中で、100%酸素を吸入することにより血液中の酸素量を増加させて、酸素不足の状態にある組織に対して改善を図るものです。

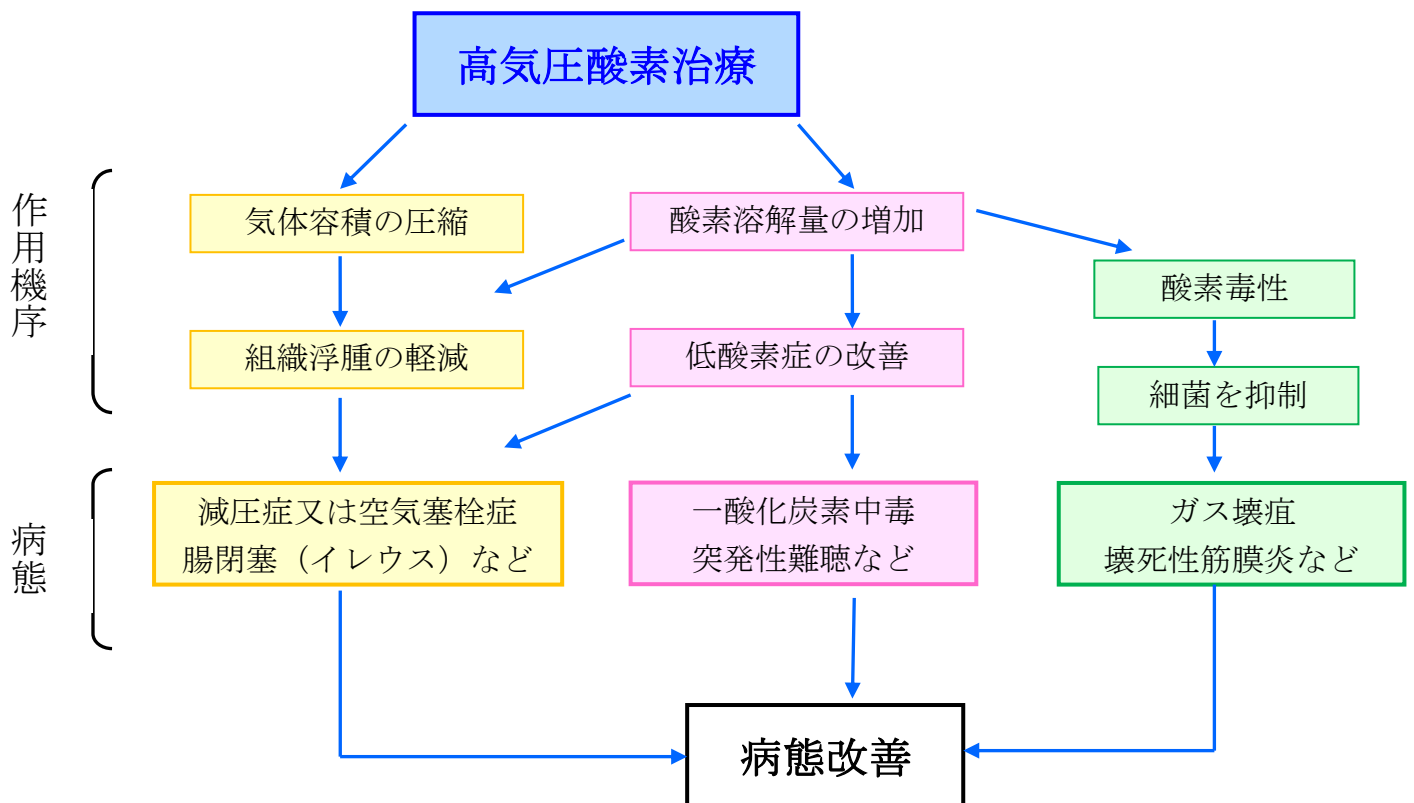
当院では、第一種（1人用）治療装置を導入しており、酸素マスクを装着しての治療となります。



高気圧酸素治療装置 KHO-2000

☆どんな病気に効くの？

一酸化炭素中毒、減圧症又は空気塞栓症、ガス壊疽、壊死性菌膜炎、突発性難聴、腸閉塞（イレウス）などに効果があります。



高気圧酸素治療の作用から見た病態への効果

《当院の実績》

2013年に高気圧酸素治療装置1台導入し、救急適応疾患を主とする治療を行なっています。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
突発性難聴	538(46)	650(58)	604(52)
イレウス	39(7)	108(17)	74(15)
腸管嚢胞状気腫症	5(1)	4(1)	17(3)
急性一酸化炭素中毒	11(3)	0	0
壊死性菌膜炎	5(1)	0	0
放射性膀胱炎	24(2)	0	10(1)
骨髄炎	14(1)	5(1)	0
その他	5(1)	5(1)	22(2)
計	641 (62)	772 (78)	727(73)

* 数値：治療回数（治療患者数）

☆治療時間、治療回数は？

1回の治療時間は、通常約90分です。所定の圧まで上げるのに約15分、その後一定圧で60分、圧力を大気圧まで戻すのに約15分要します。

治療回数は、基本1回/日とし、患者様の状態で主治医が判断します。

当院では、5回/クールとし、適応疾患により異なりますが、1~3クール行なっています。

☆治療を受ける前の注意事項は？

・ 治療中は、タンク内を加圧し、酸素を使用するため、物が燃えやすい状態となります。そのため、次の物は絶対に持ち込まないでください。

使い捨てカイロ、金属製カイロ、マッチ、ライター、タバコ、湯タンポ、メガネ、コンタクト、入れ歯、補聴器、コルセット、体温計、時計、書物、万年筆、ヘアピン、指輪、ネックレス、携帯電話、ラジオ等の電気器具、セルロイド製品、シップなどの貼付け薬、その他持ち込み許可のない物

その他、整髪剤・マニキュア・お化粧品はつけないで来て下さい。

治療時には、指定の治療衣に着替えていただきます。また、下着としては合成繊維製品の着用は避けてください。

治療を安全に実施するために、治療前に持ち込み品チェックをさせていただきますので、ご協力をお願いします。

- ・ 次に該当される方は、前もって担当医師に申し出てください。
 - ・ 耳や鼻の病気にかかっている方、または、耳の悪くなりやすい方
 - ・ 妊娠中の方、または、その可能性のある方
 - ・ ペースメーカーを使用中の方
 - ・ 気胸、肺嚢胞および、喘息などの呼吸器の病気がある方
 - ・ レーノー病と診断されている方
 - ・ 甲状腺機能低下で治療を受けている方
 - ・ 感冒、咽喉頭炎、扁桃腺炎などの風邪症状がある方
 - ・ 糖尿病のある方
 - ・ 神経科、精神科の治療を受けたことのある方、または、治療中の方
 - ・ てんかん発作を起こしたことのある方

☆副作用は？

主に耳痛です。

治療が始まり、圧力が上がってくると次第に耳が痛くなることがあります。(飛行機に乗った時や山に登った時の症状) その時は、耳抜き(あくび、つばを飲み込むなど)を繰り返してください。耳抜き動作を繰り返しても痛みが良くならない時や、身体に異常を感じた時は、インターホンが常時通じていますから我慢せずに担当者にお知らせ下さい。

どうしても耳抜きが困難な場合は、耳鼻科にて鼓膜切開が必要になることもあります。

☆高気圧酸素治療と酸素カプセルの違い

近年、疲労回復や美容目的として、酸素カプセルを利用する人が増えています。

酸素カプセルは、空気加圧(酸素 約 21%)で約 1.3 絶対気圧まで加圧していきます。この場合、体内に取り込まれる酸素分圧は、通常の大気圧の酸素分圧と比べて、約 1.5 倍。

しかし、高気圧酸素治療では、約 100%酸素吸入で 2~2.8 絶対気圧まで加圧していきます。そのため、体内に取り込まれる酸素分圧は約 15~20 倍にもなります。

酸素カプセルと比較して、酸素の量は 10 倍以上になり、効果も全く違ってきます。

高気圧酸素治療装置は、薬事法で規定された医療機器であり、医療目的として使用されていますので、酸素カプセルとは異なるものになります。(当院では厚生省が定める適応疾患を治療しています。)

《適応疾患》 厚生労働省基準(2010年)

(1) 救急的なもの

- ① 急性一酸化炭素中毒その他のガス中毒（間歇型を含む）
- ② ガス壊疽
- ③ 空気塞栓又は減圧症
- ④ 急性末梢血管障害（重症の熱傷又は凍傷、広汎挫傷又は中等度以上の血管断裂を伴う末梢血管障害）
- ⑤ ショック
- ⑥ 急性心筋梗塞その他の急性冠不全
- ⑦ 脳塞栓、重症頭部外傷若しくは開頭術後の意識障害又は脳浮腫
- ⑧ 重症の低酸素性脳機能障害
- ⑨ 腸閉塞
- ⑩ 網膜動脈閉塞症
- ⑪ 突発性難聴
- ⑫ 重症の急性脊髄障害
- ⑬ 壊死性菌膜炎又は壊疽性菌膜炎
- ⑭ コンパートメント症候群又は圧挫創症候群

*以上の疾患に対して、発症後 1 週間以内に行う場合。

(2) 非救急的なもの

- ① 放射線又は抗癌剤と併用される悪性腫瘍
- ② 難治性潰瘍を伴う末梢循環障害
- ③ 皮膚移植
- ④ スモン
- ⑤ 脳血管障害、重症頭部外傷又は開頭術後の運動麻痺
- ⑥ 一酸化炭素中毒後遺症
- ⑦ 脊髄神経疾患
- ⑧ 骨髄又は放射線性死

*以上の疾患又は救急的な疾患であって発症後の期間が 1 週間を超えたものに行う場合。